

国営緊急農地再編整備事業「ニセコ地区」における地域との連携 —教育支援パートナーシップの取組—

小樽開発建設部 後志中部農業開発事業所 ○中原 和希
小野 和也
田村 要

国営緊急農地再編整備事業「ニセコ地区」の着手を契機に、地域の担い手であるニセコ高等学校の生徒に対して、農業に関する基礎学力と規範意識を持った優れた産業人の育成を図る目的で、平成27年度からニセコ高等学校と小樽開発建設部との間で教育支援パートナーシップの協定を締結し、地区のフィールドを活用した学習活動等を継続して行っている。その取組状況について報告するものである。

キーワード：人材育成，地域交流・連携

1. ニセコ地区の事業概要

ニセコ地区は、北海道南西部の後志総合振興局管内に位置し、羊蹄山とニセコ連峰の麓に拓けた農業地帯である（図-1）。

本地域の農業は、畑作、稲作及び野菜作の複合経営など多種多様な農業が展開され、クリーン農業の実践など、付加価値のある生産を積極的に取り組んでいるが、経営規模が小さく沢地や傾斜地が多い地形要因から、田と畑が混在し、ほ場区画が小さく、農地の分散により農作業効率の支障となっているほか、石礫、排水不良等により生産性が低い状況にある。

また、農業従事者の高齢化に加え、観光や住宅（別荘）への土地利用転換が進行しており、優良農地の保全や担い手農家への農地の利用集積に支障を来している。

このため本事業により、区画整理 1,551ha を施行し、耕作放棄地を含めた農地の土地利用を計画的に再編し、さらに、担い手へ農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農産物直売所をはじめとした「ニセコブランド」の確立により6次産業の推進を図り地域の活性化に資するものである。

2. 教育支援パートナーシップの取組

(1) 概要

ニセコ高等学校（以下、「ニセコ高校」と言う）と小樽開発建設部（以下、「小樽開建」と言う）との間で交わしている教育支援パートナーシップへの評価に関する協定書（以下、「協定書」と言う）のなかで、3つの実施事項が記載されている。

- a) 授業等における出前講座
- b) 授業等における指導助言
- c) その他必要に応じて実施



図-1 ニセコ地区 位置図

この協定書を踏まえて、小樽開建後志中部農業開発事業所（以下、「当事業所」と言う）とニセコ高校の双方が教育支援パートナーシップ推進事務局を担い、次世代を担う生徒たちが、現地で実際に農業農村整備事業の実施に触れる機会を設けることにより、その目的や農業生産の重要性、食料供給の意義などについて啓発・学習している。

生徒が自ら学ぶ意識や思考力、表現力、判断力を促すため、地区のフィールドを活用した学習活動を実践する

ということに趣をおいて、毎年、具体的な取組内容について双方で確認を行い進めている。

3. ニセコ高校の紹介

当校は虻田郡ニセコ町字富士見にあり、沿革の概要は、以下のとおりである。

昭和23年 倶知安農業高等学校狩太分校として開校

昭和27年 狩太高等学校として独立

昭和39年 ニセコ高等学校と改称（現在に至る）

学科は緑地観光科として、ニセコの農業・農村、そして大自然が秘める教育力を活用して、新しい時代を担う農業経営者と、緑を大切に新しい観光産業人を育成することを目的とした、全国でも唯一の特色ある学科である。目的に応じて、「農業科学コース」と「観光リゾートコース」の2つのコースを選定している。

農業科学コースは、体験学習を重視しながら、緑地と自然環境を生かした栽培を中心に学習し、栽培を中心とした農業経営者及び関連産業従事者を育成している。

一方、観光リゾートコースは、自然環境・生活環境を中心とした体験学習を重視しながら、緑地並びに観光業務に関する知識・技術を身につけた観光産業人を育成している。2年生から各コースを選定し、さらに高度な学習を希望する生徒は4年生への進級の道がある。現在の生徒数は、72名が在籍している。

4. 教育支援パートナーシップ取組事例の紹介

(1) 授業等における指導および助言

－2つの校内発表大会への参画－

「校内意見発表大会」は、クラブ員の身近な問題や将来の問題について抱負や意見を交換し、主体的に問題を解決する能力と態度を養うことを目的として行われている。

また、日頃のプロジェクト活動の成果を発表し、クラブ員の科学的な資質を高め、職業的な能力の向上を目的とする「校内実績発表大会」が開催されている。この2つの大会には審査員として当事業所長が出席している(写真-1)。

校内実績発表大会の発表内容の区分は、以下となっている。

I類 生産・流通・経営

1. 農業生物の育成や生産性向上に関すること
2. 農業生産物の流通や消費に関すること
3. 農業の経営や経済活動に関すること

II類 開発・保全・創造

1. 生産物の加工技術や商品に関すること
2. 国土や地域環境の保全・創造に関すること

III類 ヒューマンサービス

1. 動植物や地域資源の活用に関すること
2. 地域の食文化や伝統文化の継承に関すること

生徒は、ニセコ町の農業や観光業、地域の課題を解決するために研究を行っている。この発表大会は、ニセコ町の一般町民へも意見を伺う場としている。審査方法は、発表原稿と活動記録の評価、発表内容の評価、発表方法の評価を総合して、5名の審査員で、最優秀賞および優秀賞を選出している。



写真-1 校内実績発表大会の様子

農業クラブの取組の一環として、南北海道大会の予選も兼ねていることから、講評では、「地域に密着した課題としていて共感を得た。」や「いずれの発表も持ち味が発揮され、審査にとっても苦勞した。これからもますますの活躍に期待している。」との激励の言葉を述べている。活動内容では「ニセコに定着させる京野菜」として九条ネギの栽培から6次産業まで行う班もあり、レベルの高さを感じている(写真-2)。



写真-2 ニセコ高校で栽培した九条ネギを使ったピザ

(2) 授業等における特別講座の実施

－工事現場見学会の実施－

次世代を担う生徒たちが、現地で実際に農業農村整備事業の目的のほか、農業生産の重要性、食料供給の意

義などについて啓発・学習してもらうための特別講座として毎年、現場見学会を実施している。

現場見学会では、工事施工中の見学のほかに、ニセコ地区の事業概要および食料自給率向上の重要性や北海道農業の位置付けについても説明を行っている。

工事現場見学の際に生徒からは工事現場を直接見学できることで、小さなほ場が、大きなほ場へと変わることを見ることができ、スケールの大きさと、初めて見る機械の動きに感動したり、施工方法やどんな野菜を作るのか等々の質問があり、事業に対する関心の高さが伺える(写真-3, 4)。



写真-3 ほ場整備状況を見学



写真-4 スクレープドーザーに興味津々



写真-5 水質調査方法を学ぶ生徒



写真-6 ウワーよく見える

また、環境調査の勉強会では、水質調査として、パックテストによる水質分析方法を勉強した後に、pHとBODの試験開始して、いずれも環境基準の範囲内であることを確認した(写真-5)。生物調査としてヤマベ、カジカなどの魚類と、水生昆虫ではトビゲラなどの、きれいな川で確認できる水生昆虫を、実際に網を使用し調査した。多くの水生昆虫をおそろおそろ捕まえては、学術名の確認を行い、身近な川で多くの魚や、初めて見る水生昆虫の多さを体験できたことで、生徒たちは、自然豊かなニセコ町を改めて実感出来たと考えている(写真-6)。

(3) 授業等における特別講座の実施

ー環境教育特別講座の実施ー

ここでは、ニセコ町とタイアップして、ニセコ町から「環境モデル都市 ニセコ町」と題して観光と農業の関わりについて講演をした。また、当事業所からは「ニセコ町の農業と環境」と題して、現在のニセコ町の農業概要、事業内容の説明、農地の中の自然と動植物、水質の現状と工事対策等の環境との関わりについて、環境調査の水質調査結果も思い出してもらいながら、説明した。生徒からは、専門用語が多く難しかったとの意見も出され、今後、説明方法について勉強しなければならないと感じている。



写真-7 農業と環境についてを学ぶ

(4)その他の取組

平成 28 年度の 3 年生の農業工学班が、校内実績発表大会に向けて「ニセコ地区国営緊急農地再編整備事業」と題して、1. 国営緊急農地再編整備事業を学ぶ 2. 測量の知識と技術の習得 3. 「希望ヶ丘」の測量実習と積算書の作成の流れで、国営事業で学校敷地を農地にした場合までの活動をまとめた(写真-8, 9, 10, 11)。



写真-8 現在のニセコ町農業の課題は？



写真-9 校内敷地の測量状況



写真-10 実習作業の完了

まとめ

- 1 農地整備事業による効果がわかった
- 2 測量の知識・技能を習得
- 3 「希望ヶ丘」の測量実習・積算実習

写真-11 発表のまとめ

当事業所としても最大限協力するため現地見学、測量実習、積算演習等の指導・助言を実施した。

結果は、見事、北海道実績発表大会へ進む事ができた。

5. 教育支援パートナーシップの効果

学校側の教育支援パートナーシップへの評価として、校内発表大会の審査員については、①客観的な立場から評価してもらうことが出来る、②農業分野に精通しており、適確なアドバイスが得られる、と評価されている。

また、ニセコ地区工事現場見学会については、①地域で行われている農業のための事業を知ることが出来る、②農業生産のための基盤整備の必要性を学ぶことが出来る、③日本農業が抱える課題などを学ぶ機会となっている、との評価がある。

更に、環境教育特別講座については、①環境に係る知識・技術を学ぶことが出来る、②生徒達の自然環境に関する意識が変わった等の有意義な学習メニューとなっている、といった評価を得ている。

6. おわりに

本事業の実施により、今後も地域の発展に資することを使命として、農業基盤の整備を進めるとともに、ニセコ地区のフィールドを活用した学習等を通じ、教育支援パートナーシップの取組により、生徒達にはさまざまな効果が得られていると感じているところであり、今後も活動内容について、学校側が負担と感じない程度に連携して、地域の農業や、農業農村整備事業に関する興味を深め人材育成の寄与につながっていけばと考えている。